

2004 年度 特殊講義

大学生の恋愛観と結婚観の実態調査

田島 怜奈
熊本 珠実
藪田 奈緒子
松岡 慎吾

目次

はじめに.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
背景.....	2
プロフィールデータ.....	2
集計結果.....	4
これらの結果から.....	11
まとめ.....	12

．はじめに

私達は、特殊講義 SC という講義の中で立命館大学生を対象に「恋愛観と結婚観の実態調査」を行いました。6月中旬から7月の初旬にかけて、学内でアンケートを依頼し、200枚が回収されました。(回収率100%)

現在、晩婚化や出生率の低下など様々な結婚観にまつわる社会問題がありますが、その中でも大学生は将来結婚するであろう年齢に最も近い存在であると考え、結婚観をどのように考えているのか調査する為、このアンケートを行いました。又、結婚観を恋愛観と比べることにより、よりおもしろい結果が得られると考え「結婚観と恋愛観について」というテーマで実態調査を進めました。

これらの結果が、結婚観にまつわる社会問題の今後の素材として使える実態調査になると考えました。

最後に、本調査に協力していただいた大学生のみなさんにお礼を申し上げます。

. 背景

標本対象：大学生

回収方法： その場で回収

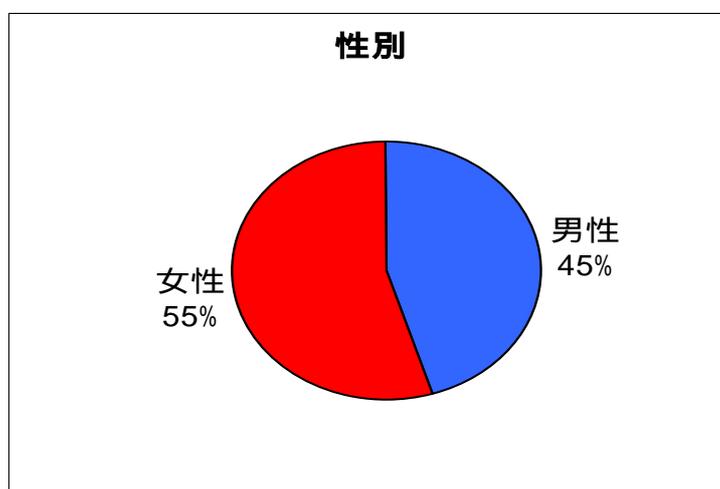
アンケート実施期間：6月15日～7月1日

回答総数：200人

. プロフィールデータ

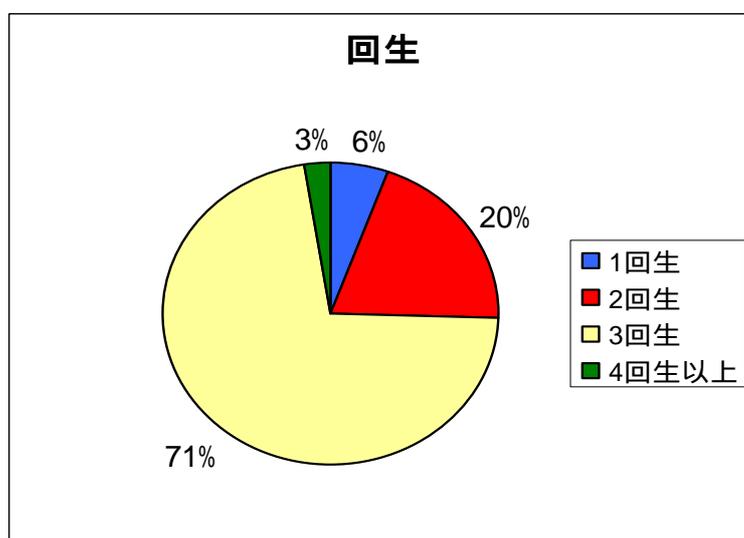
性別

男子 45% 女子 55% と、男女ほぼ半数に分かれて構成されています。



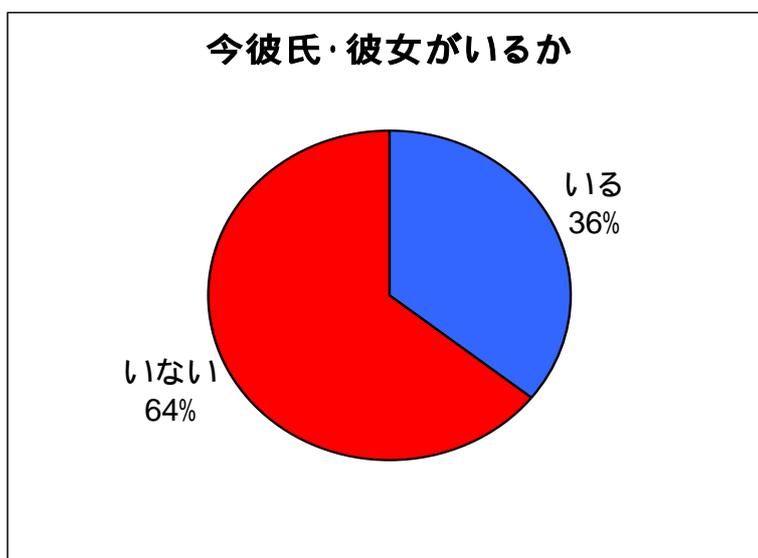
回生

1回生が6%、2回生が20%、3回生が71%、4回生以上が3%と、3回生が多い割合を占めています。



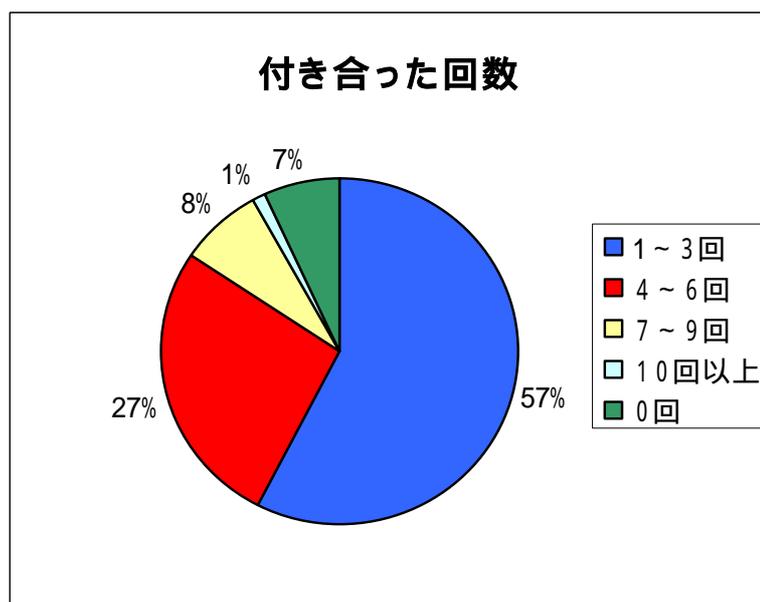
現在、彼氏・彼女がいるかいないか？

「いる」と答えた人が 36%、「いない」と答えた人が 64%と、意外にも大学生活で恋愛を楽しんでいる人の割合のほうが少ないことが解りました。



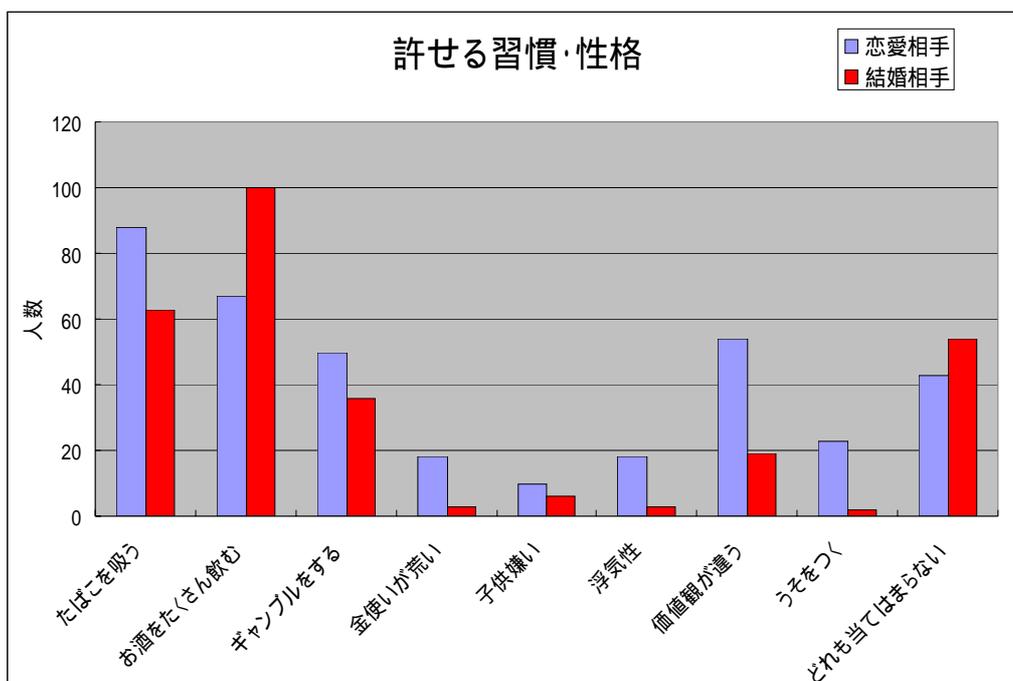
今まで付き合った回数

1回から3回の人57%、4回から6回の人27%、7回から9回の人8%、10回以上の人1%、0回の人7%でした。このデータより、ほとんどの人が恋愛経験があることが解りました。



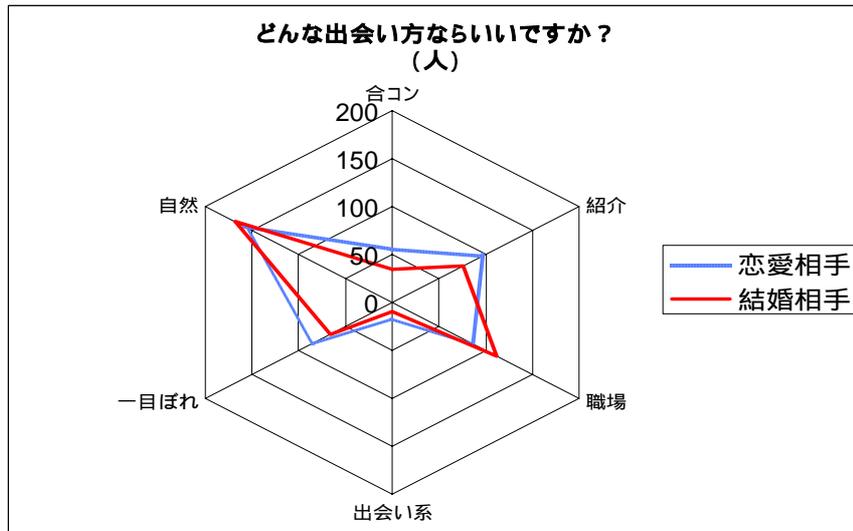
． 集計結果

アンケートで下のグラフの項目について、今まで付き合った恋愛相手に当てはまる項目、理想の結婚相手に許せる項目を選んでもらった。横軸は各項目、縦軸はそれぞれ何人の人が答えたかという人数を表している。(複数回答可)



グラフの見方はたばこ吸う人を例に挙げてみると、今まで付き合った相手がたばこを吸っていたことがあると答えた人は90人ほどいたが、理想の結婚相手がたばこを吸ってもよいと答えた人は約60人という結果が出た。つまりこれは理想の結婚相手に対しては、恋愛相手より条件が厳しくなっていることが分かる。ほとんどの項目においてこの結果が得られたのだが、「お酒をたくさん飲む」という項目だけは結婚相手に許すと答えた人が約100人と半数を占めていた。「たくさん」という基準は人によって違ってくるとは思うが、お酒というものは結婚相手に対してそれほど厳しく考えている大学生は少ないように思った。

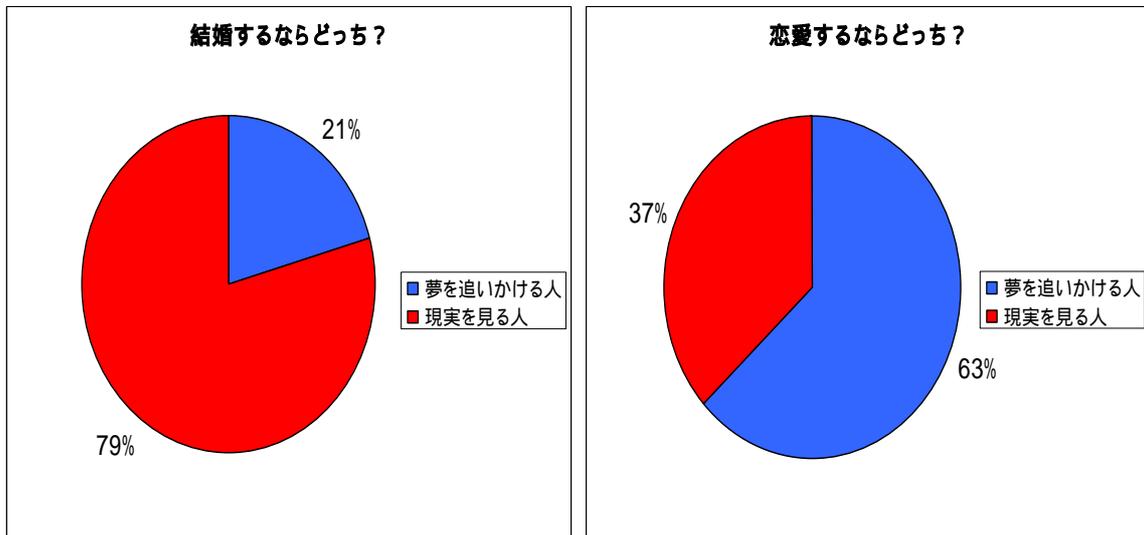
次にどういう出会い方であれば付き合いますかという質問に、恋愛と結婚のそれぞれの場合について答えてもらった。(複数回答可)



恋愛、結婚どちらの場合においても、一番多かったのは「自然に付き合う」という形であった。グラフから見ても恋愛でも結婚でも出会い方についてはさほど差はないように感じた。つまりどちらの場合でも、大学生の理想の出会い方というのは変わらないのではないかと思った。また、恋愛から結婚に発展するというのが最も良いのではないかと思った。

次に下の二つのタイプについて、恋愛相手、結婚相手に選ぶとしたらどちらのタイプですかという質問に答えてもらった。

- ・ ミュージシャンや芸術家のような、夢を追いかける人
- ・ 現実を見てコツコツ働く人



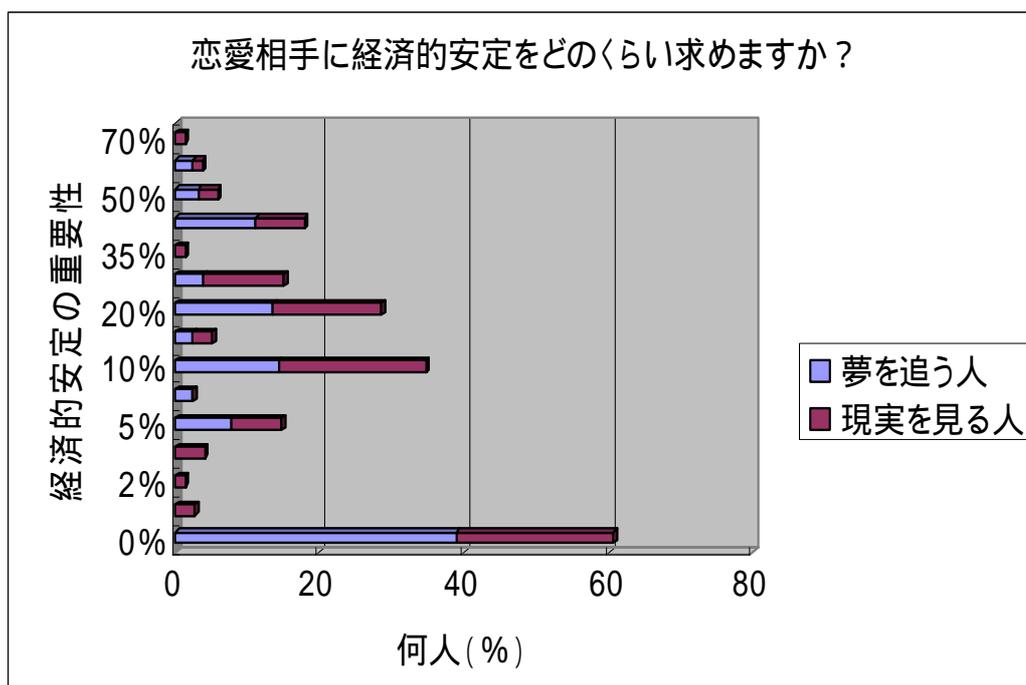
これはすごくわかりやすい結果を得ることが出来た。恋愛するならどちらがいいですかという質問に対して、「夢を追いかける人」と答えた人が63%と、半数以上を占めた。一方、結婚するならどちらがいいですかという質問に対しては、79%、約8割の人が「現実を見てこつこつ働く人」の方を選ぶという結果が得られた。

結婚は家庭を持つという責任もあり、現実を見てこつこつ働く人と結婚したいというより、夢を追いかける人とは結婚できないと考えている大学生が多いのではないかと思います。やはり恋愛相手と結婚相手を別々に考えている人が多いのではないだろうか。

アンケートで恋愛相手に何を求めるかという質問で下の項目をどのくらい重要視するか、パーセンテージで表してもらった。

- ・経済的安定 ・容姿 ・身長 ・性格の相性 ・名声
- ・尊敬できる ・安らぎ ・刺激 ・その他

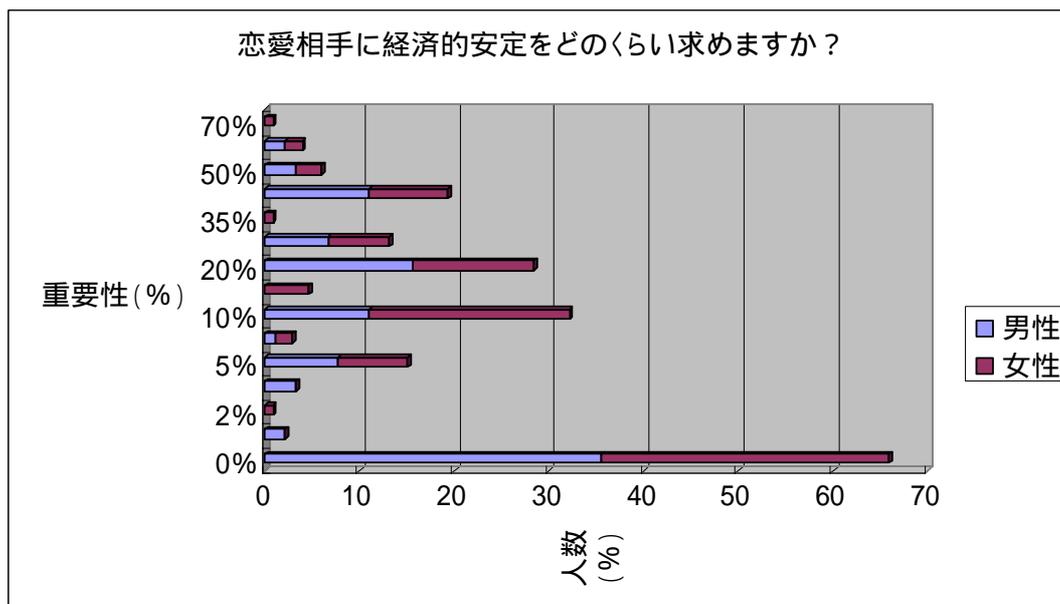
この中で恋愛相手と結婚相手で差が見られた経済的安定について見て行きたいと思う。まず先ほどの質問において、恋愛相手に夢を追う人を選んだ人、現実を見て働く人を選んだ人別に経済的安定をどのくらい重視するかというのをグラフに表した。



このグラフは縦軸に経済的安定をどのくらい重視するの割合(%)を表したもので、横軸には現実を見る人、または夢を追う人の何%の人がそれを選んだかというものを表している。

グラフから、で夢を追う人を選んだ人の中で、経済的安定を0%にしている人が圧倒的に多いということが分かる。逆に現実を見る人を選んだ人はばらつきが見られた。全体的に恋愛相手に経済的安定はそれほど重要視しない大学生が多いようである。

質問は先ほどと同じであるが、結果を男女別に見てみた。

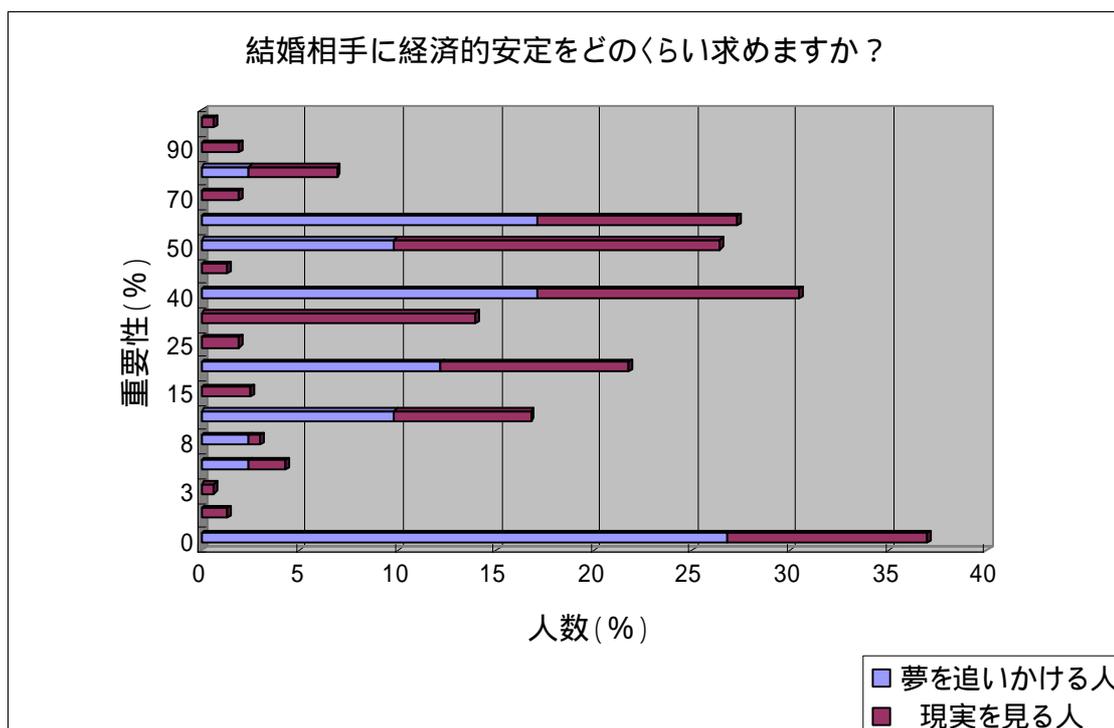


このグラフも縦軸に経済的安定をどのくらい重視するのかという割合(%)を表したものの、横軸には男性、女性の何%の人がそれを選んだかというものを表している。

先ほどのグラフより0%を選んでいる人が男女ともに多く、やはり大学生の男性も女性も恋愛に経済的安定はそれほど必要ないと考えているのではないかと思った。

次に結婚相手についての質問である。いまだきの大学生の結婚観について、特に男女比に注目してもらいたい。

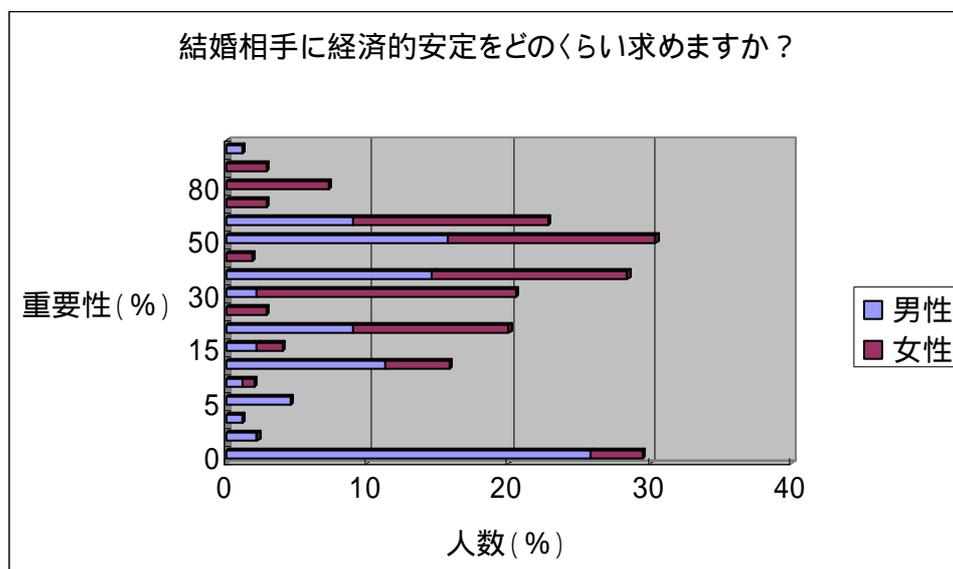
結婚相手に何を求めますか？という質問で他に容姿や学歴、安らぎや刺激などの項目でパーセンテージで表してもらった。下の図はその中で結婚相手に夢を追いかける人を選んだ人と現実を見る人を選んだ人を比べたグラフである。



このグラフも縦軸に経済的安定をどのくらい重視するのかという割合 (%) を表したものの、横軸には現実を見る人、または夢を追う人の何%の人がそれを選んだかというものを表している。

まず初めにいえるのが、結婚相手には恋愛相手より経済的安定を求めているということである。恋愛相手では0%を選んだ人が圧倒的に多かったけれど、結婚相手には30~60%を選んだ人が多く、結婚とお金は切っても切り離せない存在だといえる。また、恋愛相手と異なる点としては、夢を追う人を選んだ人と現実を見る人を選んだ人の結果に大差が出ていないということである。

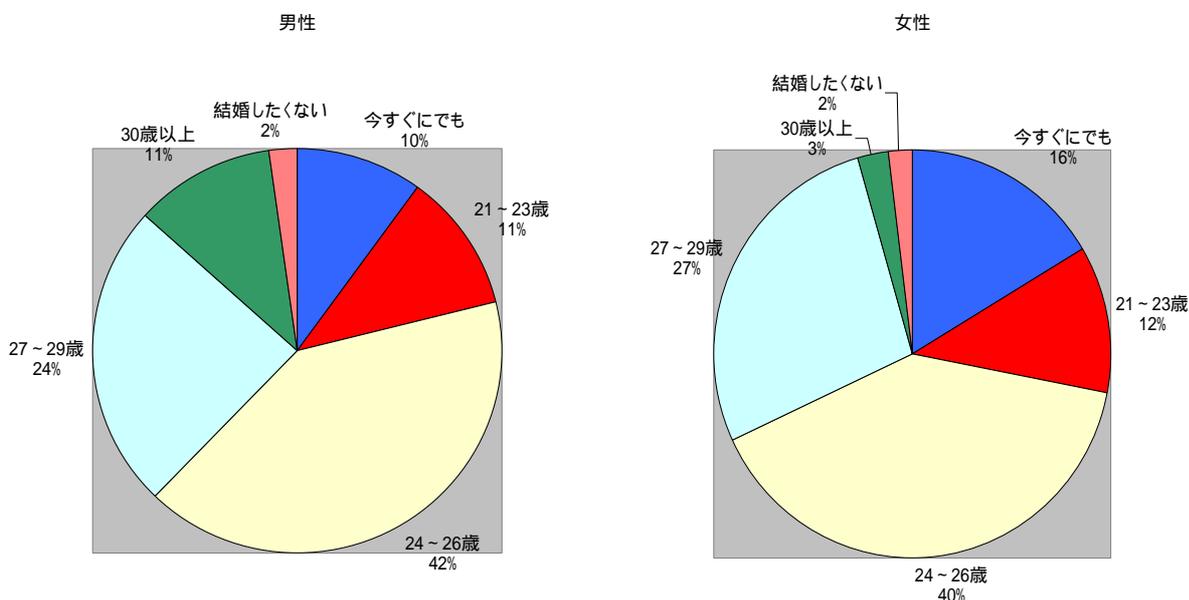
次に、上と同じ質問で特に差が大きかった男女についてのグラフである。



このグラフも縦軸に経済的安定をどのくらい重視するのかという割合 (%) を表したものの、横軸には男性、女性の何%の人がそれを選んだかというものを表している。

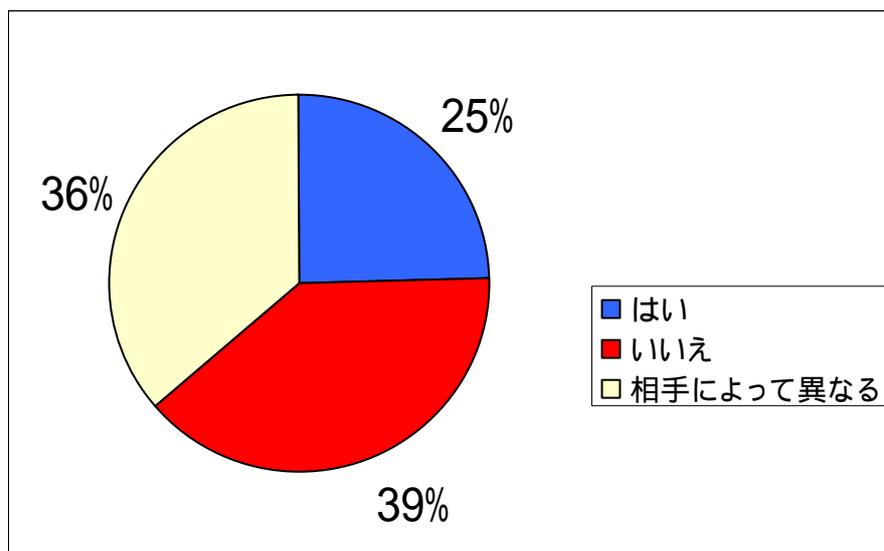
まず初めに気づくのが男性は0%を選んだ人が一番多く、結婚相手(この場合女性)に経済的安定は強く求めていない人が女性より断然多いということである。しかし、40~60%選んだ人を合計すると0%を選んだ人より多くなる。ということは、あくまで男性も経済的安定は、結婚相手を選ぶひとつの要素として考えている人のほうが多いということである。そして、女性についていえば一目瞭然で結婚相手(この場合男性)に経済的安定を求めていることが見てわかる。0%を除いた96%の女性が結婚相手に経済的安定を多かれ少なかれ求めているのである。

何歳で結婚したいですかという質問での男女比のグラフである。



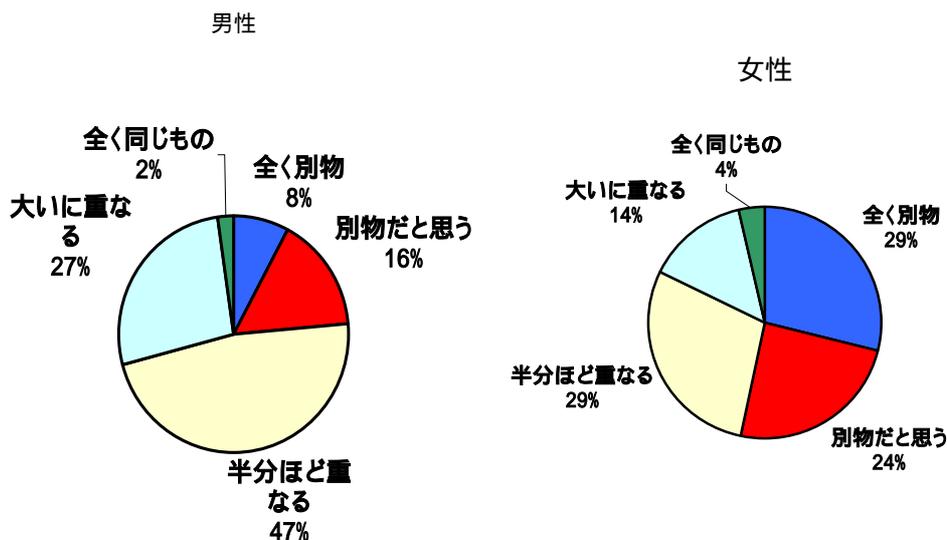
この質問ではあまり男女の差はでなかった。男女ともに24～26歳か27～29歳の間で結婚したいという人が多いと。しかし、女性は30代に入るまでに結婚したいと思っている人が95%と20代にうちに結婚したいと思っている人が大多数であることがわかる。女性のほうが年齢に執着心が高いということがわかる。結婚したくないと答えた人も男女ともに差はなかった。

恋愛相手をいつも結婚相手としてみていますか？という質問のグラフである。



『はい』と『相手によって異なる』を選んだ人を合わせると61%と、約6割の人が今まで付き合った人の中で結婚相手として考えたことがあることになる。しかし、結果として一番多かったのは『いいえ』を選んだ人だった。

恋愛相手と結婚相手は違うと思いますかという質問である。



この質問ではかなりの男女差が出た。女性は恋愛と結婚は『全く別物』『別物だと思う』を合わせた人が半分以上なのに対して、男性は4分の1以下だった。逆に男性は恋愛と結婚が重なると考えている人が『半分ほど重なる』『大いに重なる』『全く同じもの』をあわせたところ、76%と恋愛相手を結婚相手として見ている人が大半だった。

以上のことから結婚について男女の考え方の違いに大きな差があることがわかった。特に経済的面で言えば、男性は養っていく、女性は養ってもらうという根本的な意識の違いが大きく差に出たと思われる。

・これらの結果から

これらの結果から恋愛相手と結婚相手の共通点と相違点をまとめました。

まず共通点として、相手との出会い方が挙げられます。さきほどのグラフからもわかるように、恋愛相手と結婚相手の両者共に、数字に変化がなかったことから、みんなは相手との出会い方のそうこだわっていない事がわかりました。

次に、男女による恋愛相手の経済的安定の重要性です。恋愛であるから、金銭面のこだわりはいらぬであるとか、お金よりも容姿で選ぶという答えが多かった事が、これらの

理由として挙げられます。

相違点は男女による結婚相手の経済的安定の重要性和男女による恋愛相手と結婚相手の区別です。

まず重要性の理由として、女性は「男性に頼りたい。」という気持ちがある事がいえます。この結果は以外にも女性が経済的安定を求めるといった現実的答えが多かったです。

次に、男女による恋愛相手と結婚相手の区別で男女に大きな差が生じました。これは、将来家庭を持ち人を養わなければならない男性側の意見と、そうでない女性側の意見より、男女間に差が見られたと考えられます。

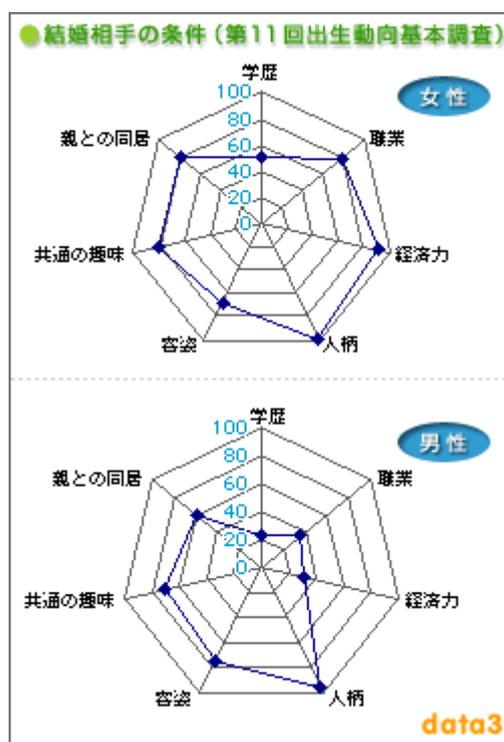
・まとめ

まとめとして、大学生を対象に女性の考える恋愛観と結婚観は違うと結果が得られました。

私たちは、相違点の男女の差に着目し、その中でも特に女性の考える恋愛観が結婚観と大きく異なったことから、女性は男性に対して、将来経済面で頼っていきたくて思っている人達が多いことがわかりました。

私たちの予想では、「女性の時代」と言われている今、もっと自分で働いて生きていく女性が多かったり、少し「働いてから結婚する」という人が多いとかがえていた。

しかし、結果は予想とは異なる結果が得られ、現在「女性の時代」と社会で言われている今でも、女性が結婚相手に対して経済的安定を重要視していること、又希望の結婚年齢から、「将来女性が経済面で男性に頼って生きていく考え方」は昔のデータと比べて、今でも変わらないように思えました。



出展：社会保障・人口問題研究所
平成9年 第11回出生動向基本調査